

手稲稲積公園の魅力の向上に向けた
サウンディング型市場調査の対話結果の公表について

令和 7 年 9 月 22 日
札幌市建設局みどりの推進部

1 実施の経緯

手稲稲積公園の魅力の向上に向けた検討にあたっては、これまでに市民アンケートや他都市事例のヒアリング調査等の実施を通じて、市民ニーズを踏まえた施設改修案の検討を行ってきました。そこで、これまでの調査検討により得られた魅力向上に向けたアイデアの一例を示し、民間事業者のみなさまから手稲稲積公園で実現可能な施設機能のご提案やご意見をいただくことで、官民連携手法の導入の可能性を検討することを目的としてサウンディング型市場調査を実施しました。

2 調査対象公園

公園名	手稲稲積公園
公園種別	運動公園
住所	札幌市手稲区前田 1 条 5 丁目
開設年度	昭和 56 年（1981 年） 7 月
面積	181,503㎡

詳細は実施要領及びサウンディング資料をご覧ください。

<https://www.city.sapporo.jp/ryokuka/sounding/r7sounding.html>

3 実施スケジュール

実施要領等の公表	令和 7 年 6 月 20 日（金）
現地見学会・説明会の参加申込期限	令和 7 年 7 月 4 日（金）
現地見学会・説明会の開催	令和 7 年 7 月 9 日（水）
対話参加申込及び提案書の提出期限	令和 7 年 8 月 7 日（木）
対話の実施	令和 7 年 8 月 18 日（月）～ 8 月 29 日（金）

4 参加事業者（オンライン含む）

- (1) 現地見学会・説明会参加事業者 9 者
- (2) 調査（対話）参加事業者 9 者（建設・施設運営・小売・不動産管理事業者）

5 サウンディング結果の概要

分類	提案・意見（抜粋）
1 ていねプールについて	通年利用 ○宿泊機能(キャンプなど)、温浴機能(温水プール・サウナなど)、飲食物販機能、運動機能(ジム・屋内遊び場など)を導入し公園全体で通年利用を図る ○夏季のプール営業後、プールを釣り場として活用する
	同一設備の複数機能間のシェア ○温水プールを設置することで、利用期間が延長できる他、体が冷えた際には温まることができる ○屋根付きの休憩施設を設置することで、日陰スペースとして利用ができ、予約席として有料化することなども考えられる
	ていねプールのイベント・ソフト事業 ○キッチンカーを週替わりなどで誘致し、プール利用者に対して期間中の再度の利用を促す ○年間を通してロケーション撮影地として公園を活用する
2 民間収益機能の整備運営について	民間独立採算での屋内プール施設・温浴施設の可能性 ○屋内プールはコストがかかり、民間独立採算とした場合、現状の利用料金による営業は極めて難しい
	その他営業可能性のある業態 ○グランピング施設・BBQ 施設 ○サブスクリプション型のスポーツ・健康教室運営
3 緑地空間について	緑地空間の利用用途 ○スキー山を利用したスキーやスノーボードの練習施設の設置 ○キャンプサイト、BBQコーナー、施設の設置運営及び各種アウトドアに関するギア販売、体験実習のイベント開催
4 運動施設エリアについて	運動施設エリアの利用用途 ○公園管理事務所を更新しスポーツジムやランドリーカフェ等を導入する ○休憩や交流の場としてクラブハウスにカフェやラウンジスペースを設置する
5 全般に係る提案について	管理体制 ○設計施工一括発注などで整備コストの低減を図り、指定管理者制度による公園全体の一体的な維持管理を行い管理コストを低減することが望ましい
	その他 ○駐車場が不足しており、現状の公園ゾーニング、施設配置・規模・種類について再検討し、駐車場の拡張や立駐化が必要である ○特定のエリアに絞らず、公園全体で自由度高く収益施設の配置箇所や規模を設定することで、テナントの誘致や集客イベントの開催が可能となる

※サウンディング調査にて125件のご提案・ご意見をいただきました(重複提案あり)。

6 今後の予定

本調査の結果を踏まえ、手稲稲積公園の魅力の向上に向けた官民連携手法の導入の可能性について検討を進めてまいります。